



アンケート調査ご協力をお願い



がん治療後に子どもを持つ可能性を残す 思春期・若年成人がん患者に対する がん・生殖医療に要する時間および経済的負担に関する実態調査

若年性乳がんサポートコミュニティ Pink Ring 代表 御船美絵
チーフメディカルアドバイザー 北野敦子
(国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科)

【調査の目的と内容】

若年性がん患者にとって、がん治療後に子どもを持てるかどうかは懸念事項の1つです。がん治療の影響で生殖臓器が低下したり喪失することを、「妊よう性(子どもを生殖する力)」の低下と言います。

現在は、がん治療の開始前に生殖補助医療を用いた妊よう性温存方法(卵子凍結・精子凍結・受精卵凍結・卵巣凍結等)が実施可能となってきましたが、保険適応外での医療費が発生するため、患者にとって少なからず経済的負担となっていることが予想されます。また、妊孕性温存方法の実施までに必要な時間(期間)も、心理的負担となっている可能性が考えられます。

この調査では、若年性がん患者が、妊よう性温存(がん・生殖医療)に要する時間および経済的負担の実態を明らかとし、より充実したがん・生殖医療の実現に向けての示唆を得たいと考えております。

また本調査を通して、がん患者を対象とした生殖補助医療に対する助成制度や、医療費の見直しなどの可能性を提言していきたいと思っております。ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

※本研究は、公益財団法人がん研究振興財団平成28年度がんサバイバーシップ研究助成金を得て実施

【ご協力いただきたい方】

がん種問わず、がん診断時に生殖能力を有した
現在満20歳～満50歳の男女

妊よう性温存(卵子・精子・受精卵凍結など)を実施しているしていないは関係なく募集中です

【調査にかかる時間】

10分程度でご回答いただけます

【アンケートの回答フォーム】

<http://lite.dipsurvey.net/index.php/985849/lang-ja>

Pink RingのHP(<http://www.pinkring.info>)からも
ワンクリックで回答フォームにアクセスできます！



回答期限:2017年2月28日(火)まで

ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください
調査担当者:御船美絵 メール:pinkring.su@gmail.com